

育苗準備

- 育苗箱は水はけがよく、ゆがみやひよりのない丈夫なものを選ぶ。
- 育苗箱や育苗資材は500~1000倍に薄めた『イチバン乳剤』で消毒し、育苗環境を整える。

【田植え時期に合わせた育苗計画の策定】

- 5月15日田植えを中心とした育苗計画を立てる。
- ★育苗日数の目安：**一般苗は19日、密苗は16日を目安に!**

※上記日数は目安です。苗の生育が進んでいる場合は田植開始日を早める。

コシヒカリ・富富苗 育苗計画(例)

(一般苗)

	浸種	催芽	播種	ハウス搬入	田植	育苗日数
コシヒカリ	4月8日	4月17日	4月19日	4月22日	5月10日	21日
	4月17日	4月24日	4月26日	4月29日	5月15日	19日
	4月25日	5月1日	5月3日	5月6日	5月20日	17日
富富苗	4月7日	4月17日	4月19日	4月22日	5月10日	21日
	4月15日	4月23日	4月25日	4月28日	5月15日	20日
	4月23日	4月30日	5月2日	5月5日	5月20日	18日

※密苗の場合は3~4日程度短くなる。

浸種

- 浸種開始日は水温『12.5℃』を確保する。
- 水温が10~15℃を保てるように浸種桶の設置場所や浸種方法を工夫する。
- 浸種桶は日陰に置き、水温10℃以下、20℃以上にならないように注意する。



【浸種の水量】
種籾 : 水量
100kg : 360L以上

種子消毒時の薬剤効果の向上

浸種から3日間は水の入れ替えを行わないようにする。
その後の水の交換は2日に1回とし、過度な水の交換を行わない。

- ★水温を安定させることで、催芽の揃いも良くなり、播種量の安定や苗の生育ムラも少なくなる。

催芽

- 催芽温度は29~30℃を守り、芽の長さはハト胸~2mm程度に揃える。

催芽のポイント

- 芽出し中は種籾を時々反転させ、温度ムラをなくす。
- 余熱で芽が伸びすぎないように、冷水でしっかりと芽止めを行う。

芽の長さ
ハト胸~2mm
伸びすぎないように!!



播種

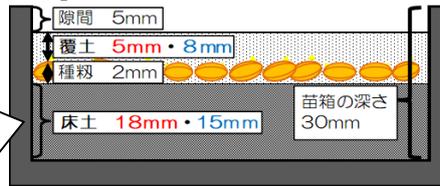
- 試し播きを行い、播種量、床土量、灌水を確認する。
- 脱水を行い、種籾が手につかない程度に乾かしてから播種する。
- ★育苗培土の種類により吸水性、乾き方などが異なるため、特徴を理解して使用する。
- ★覆土に軽量培土を使用する際は播種時の覆土ムラで種子が露出しないよう、播種量を調節する。

【育苗箱への培土充填イメージ】

播種量の目安

栽培方法	乾籾重量	1ネット(4kg) 当たり箱枚数
一般苗	120g	33箱
密苗	250g	16箱

加工床土と軽量培土で覆土と床土の厚さを調節しましょう。
赤字：加工床土
青字：軽量培土
その他は同じ



覆土は育苗箱の高さよりもやや少なめにすることで、培土が十分に吸水できるようにする。



出芽

- 出芽温度は29~30℃を厳守する。
- 温度管理の徹底
 - 29℃以下では出芽が遅れ、不揃いになる。
 - 30℃以上では細菌病やリゾプス菌が発生しやすくなる。
- 低温時の搬出は生育不良に繋がるので控える。

【搬出の目安】
芽の長さ約1cmを目安にする。



ハウス管理

- 【搬入前後】
 - 搬入前後はハウス内の温度を30℃以下にする。
 - 排水不良：細菌病やカビ病が発生しやすくなるため、床面を均平にし、水がたまらないようにする。
 - 搬入直後は十分に灌水をして覆土を落ち着かせ、水不足や覆土の浮き上がりにより苗がヤケないように注意する。



細菌病により苗が枯死



ムレ苗による被害

緑化期(搬入後2~3日)

- 搬入後は強い光に当てると白化するため被覆資材をかけるが、緑化終了後(第1葉が開く頃)は速やかに除去する。
- 緑化中は水分状態をこまめに確認し、覆土が白く乾いたら適度に灌水を行う。

ハウス内の温度管理

30℃を超えると細菌性病害や軟弱徒長苗が発生しやすくなるため、換気を行い温度を下げる。

硬化期(緑化期以降)

- 換気を十分に行い、ハウス温度は昼は25℃以下、夜は10℃以上になるよう管理する。
- 灌水は1日1回、早朝に行う。

かん水過多

根の伸びが悪くなるとともに、カビが発生しやすくなるので注意する!!

かん水不足

葉ヤケ等の発生に注意する!!

- 搬入後1週間頃からは著しい低温や荒天時以外は、夜間も換気を行い外気にならす。